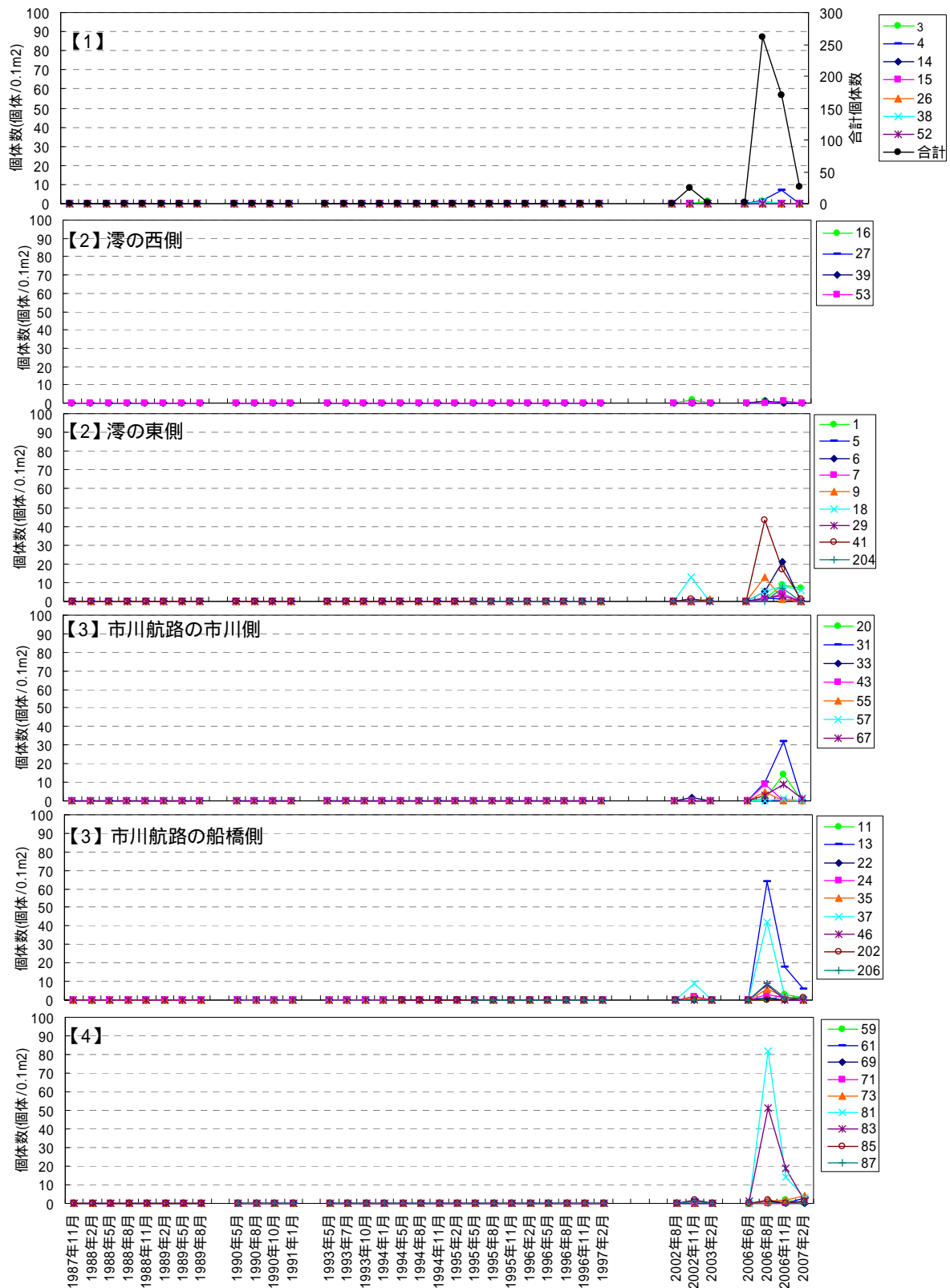


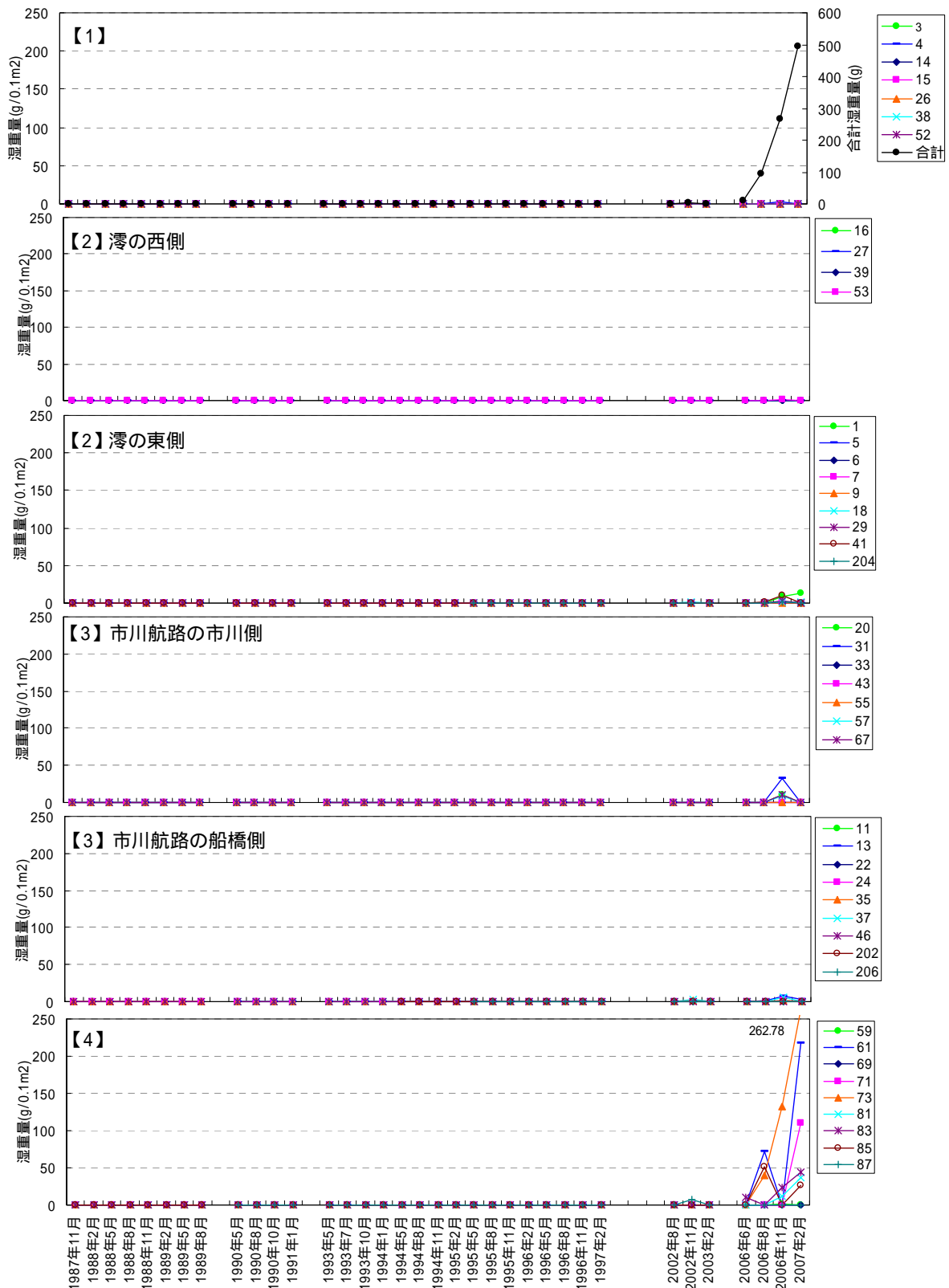
(4) ホンビノスガイ

1) 経時的な変化



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.18(1) ホンビノスガイの地点別の経時的な変化 (個体数)



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.18(2) ホンビノスガイの地点別の経時的な変化 (湿重量)

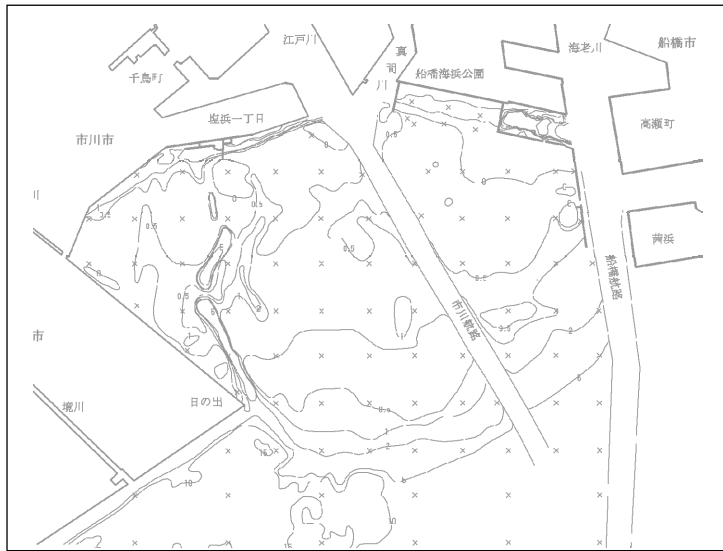


図 3.19(4) ホンビノスガイの平均個体数密度分布 (1994-1996 年度平均)

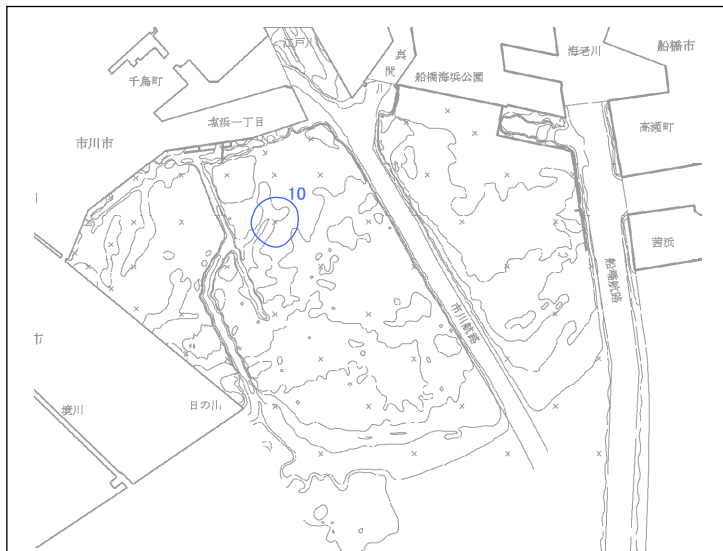


図 3.19(5) ホンビノスガイの平均個体数密度分布 (2002 年度)

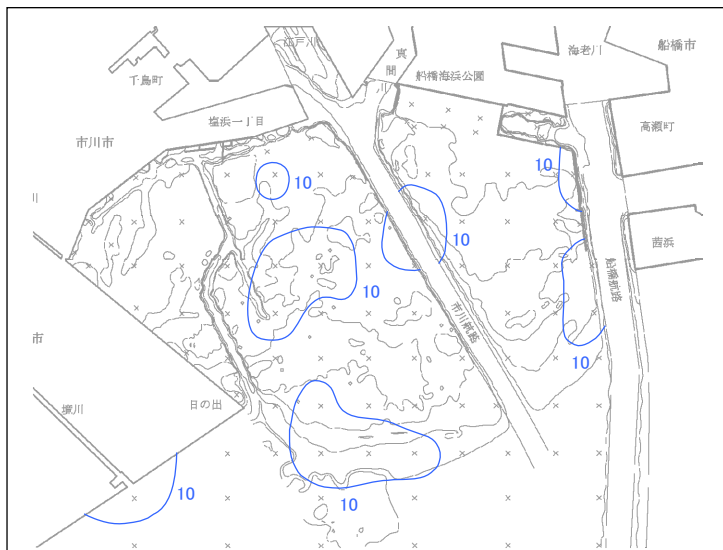
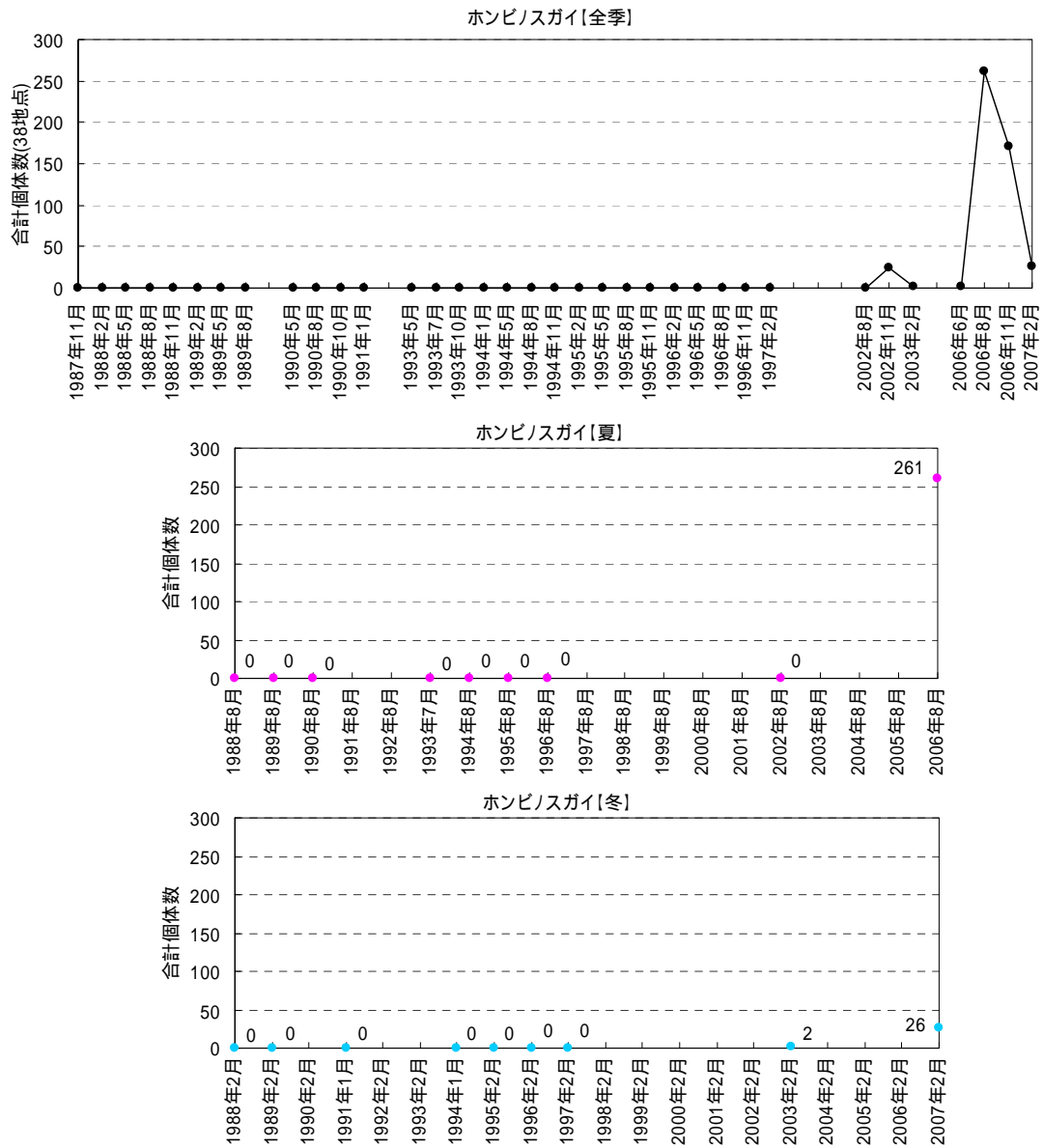


図 3.19(6) ホンビノスガイの平均個体数密度分布 (2006 年度)



注) 個体数は、各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計の値を示す。

図 3.20 ホンビノスガイの個体数の変化の傾向 (上: 全季節、中: 夏季、下: 冬季)

2) 底質との関係

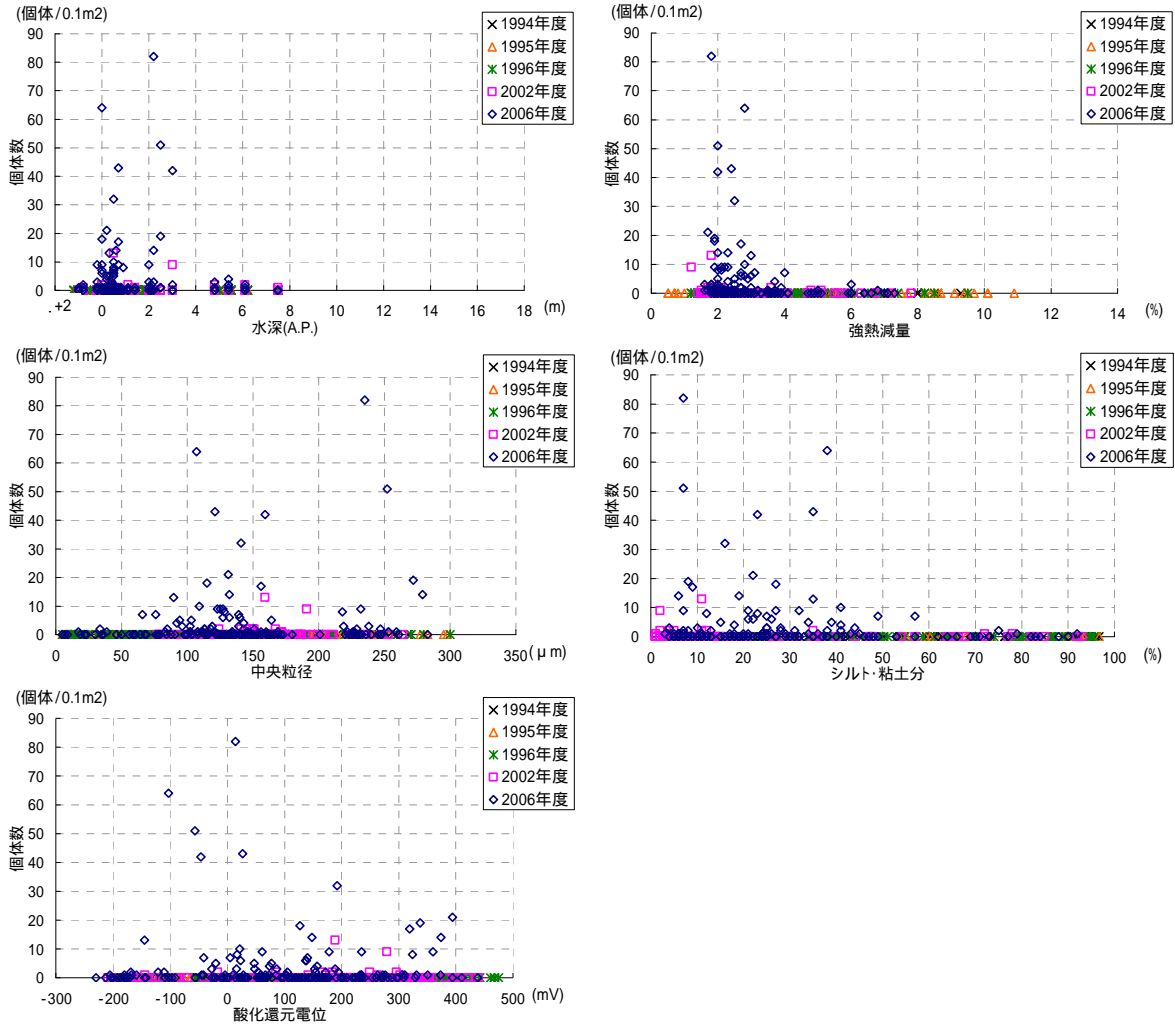


図 3.21 ホンビノスガイの出現個体数と底質との関係

3) 生態等

ホンビノスガイ	
分布	北米東岸を原産とする移入種。*1
形態	殻長 9cm。側面は滑らか。*2
生息環境	生息水深は潮間帯から 15m 程度で、砂泥質の底質を好み、海草ベッド内にも出現する。通常、大きな個体群は水温が 2~28 度、塩分が 17~32psu の範囲の水質環境をもつ閉鎖系内湾に出現すると言われている。 東京湾奥で分布を拡大している要因として、一年中を通して比較的高い水温環境を利用し、常に成熟個体を維持していること、貧酸素や低塩分など通常の二枚貝では生息が厳しい環境条件でも生残可能とする高い環境耐性をもつことが考えられる。*1
文献	*1 東京湾に移入した外来大型二枚貝ホンビノスガイについて (樋渡武彦・木幡邦男, 2005 年, 水環境学会誌, Vol.28, No.10, 614-617) *2 世界海産貝類大図鑑 (波部忠重・奥谷喬司 監訳, 1985 年, (株)平凡社)

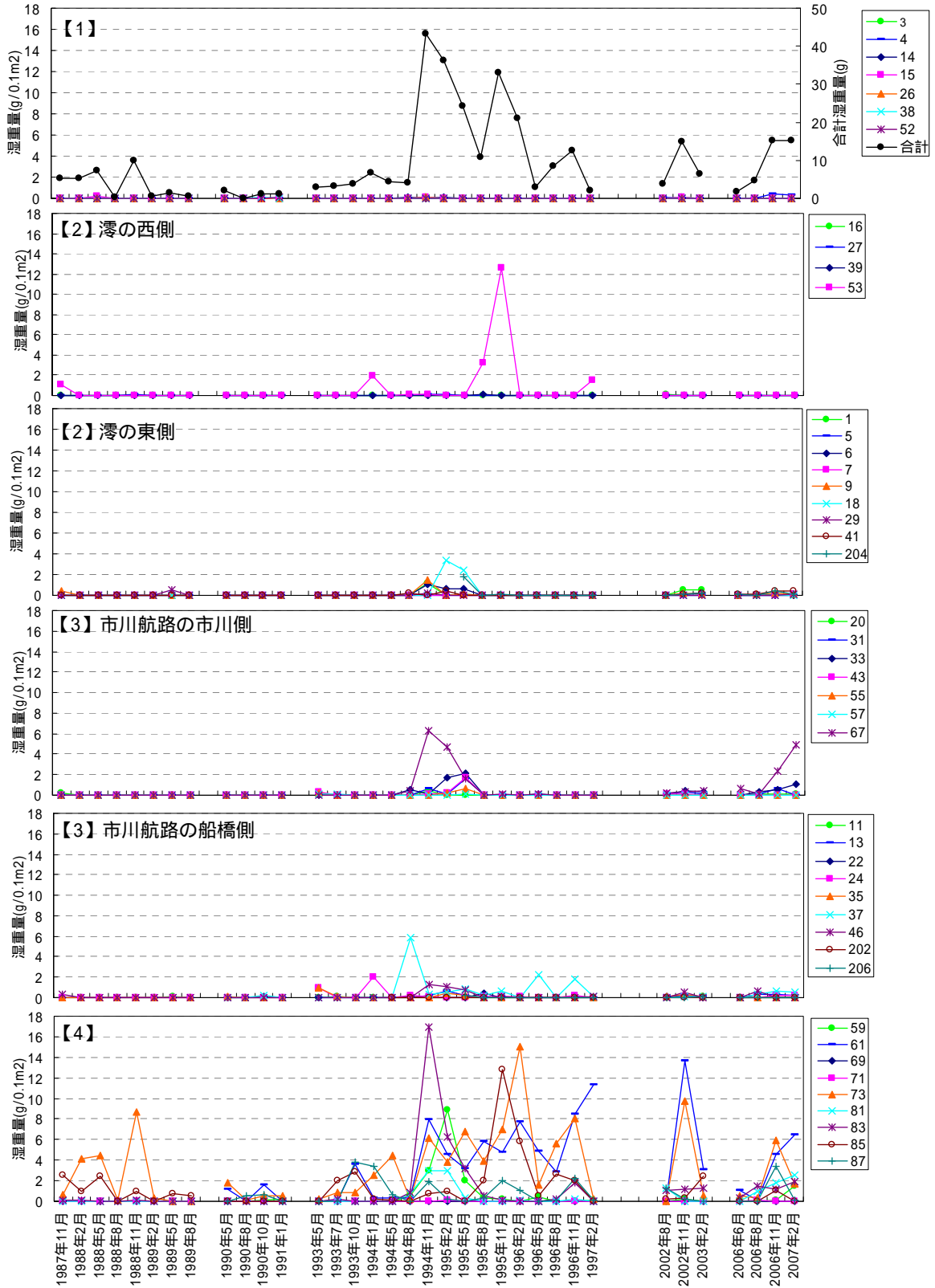
(5) シノブハネエラスピオ (ヨツバネスピオタイプ A)

1) 経時的な変化



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.22(1) シノブハネエラスピオの地点別の経時的な変化 (個体数)



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.22(2) シノブハネエラスピオの地点別の経時的な変化(湿重量)

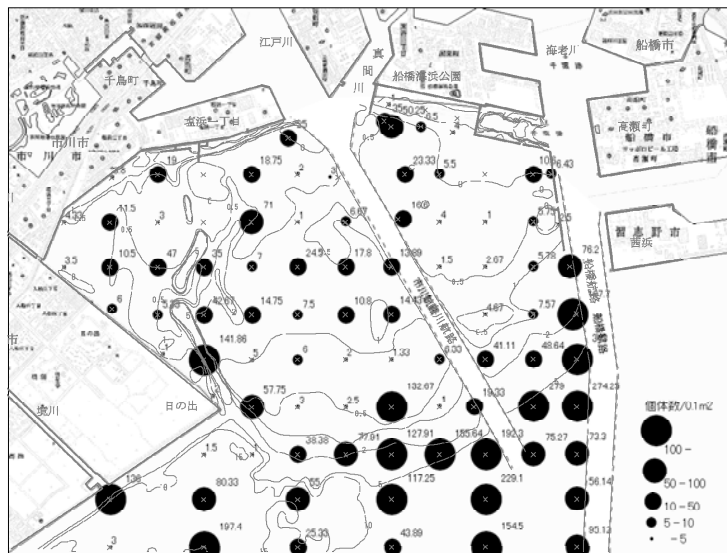


図 3.23(1) シノブハネエラスピオの平均個体数密度分布 (1994-1996 年度平均)



図 3.23(2) シノブハネエラスピオの平均個体数密度分布 (2002 年度)



図 3.23(3) シノブハネエラスピオの平均個体数密度分布 (2006 年度)

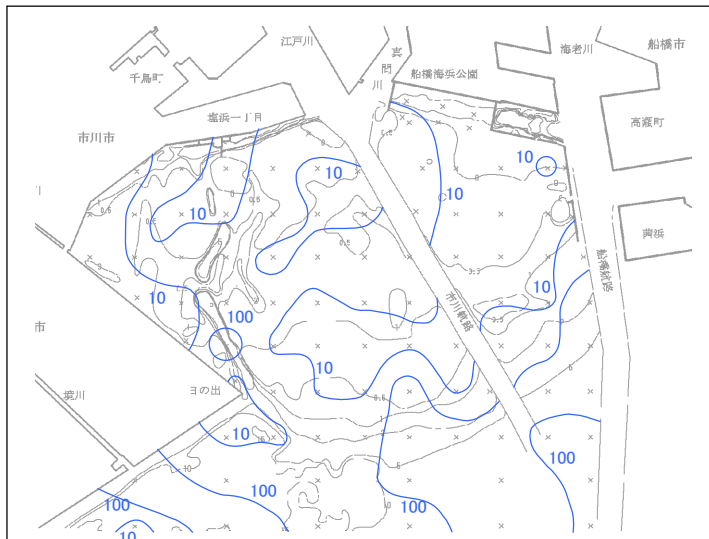


図 3.23(4) シノブハネエラスピオの平均個体数密度分布 (1994-1996 年度平均)

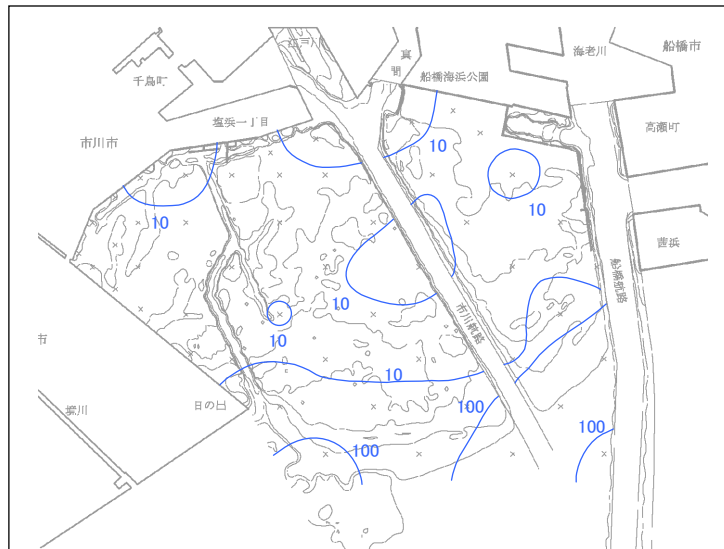


図 3.23(5) シノブハネエラスピオの平均個体数密度分布 (2002 年度)

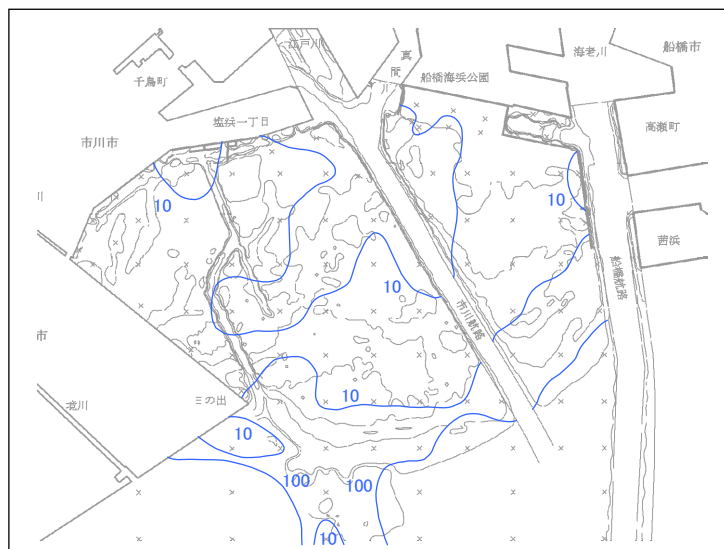
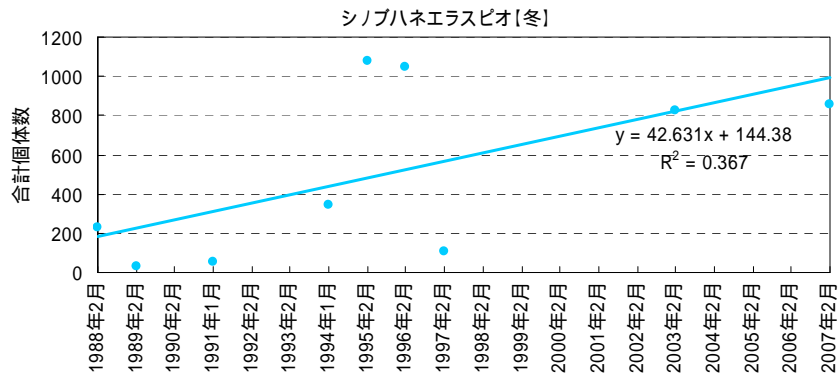
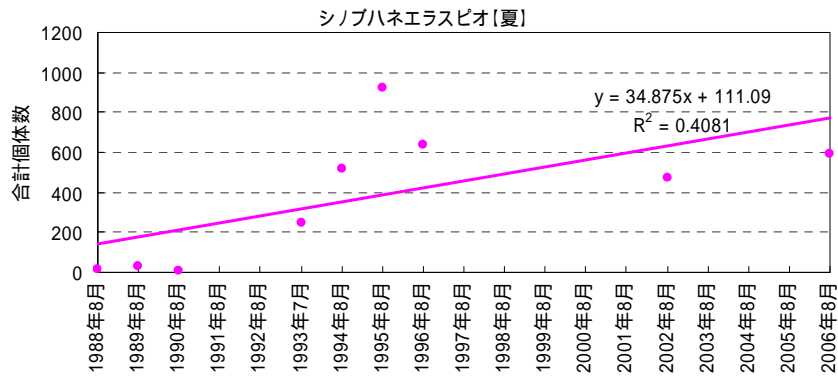
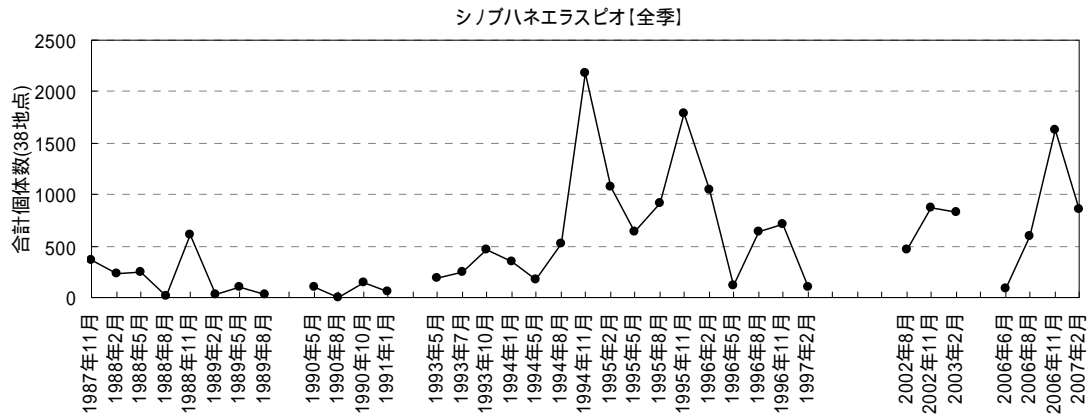


図 3.23(6) シノブハネエラスピオの平均個体数密度分布 (2006 年度)



注) 個体数は、各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計の値を示す。

図 3.24 シノブハネエラスピオの個体数の変化の傾向(上:全季節、中:夏季、下:冬季)

2) 底質との関係

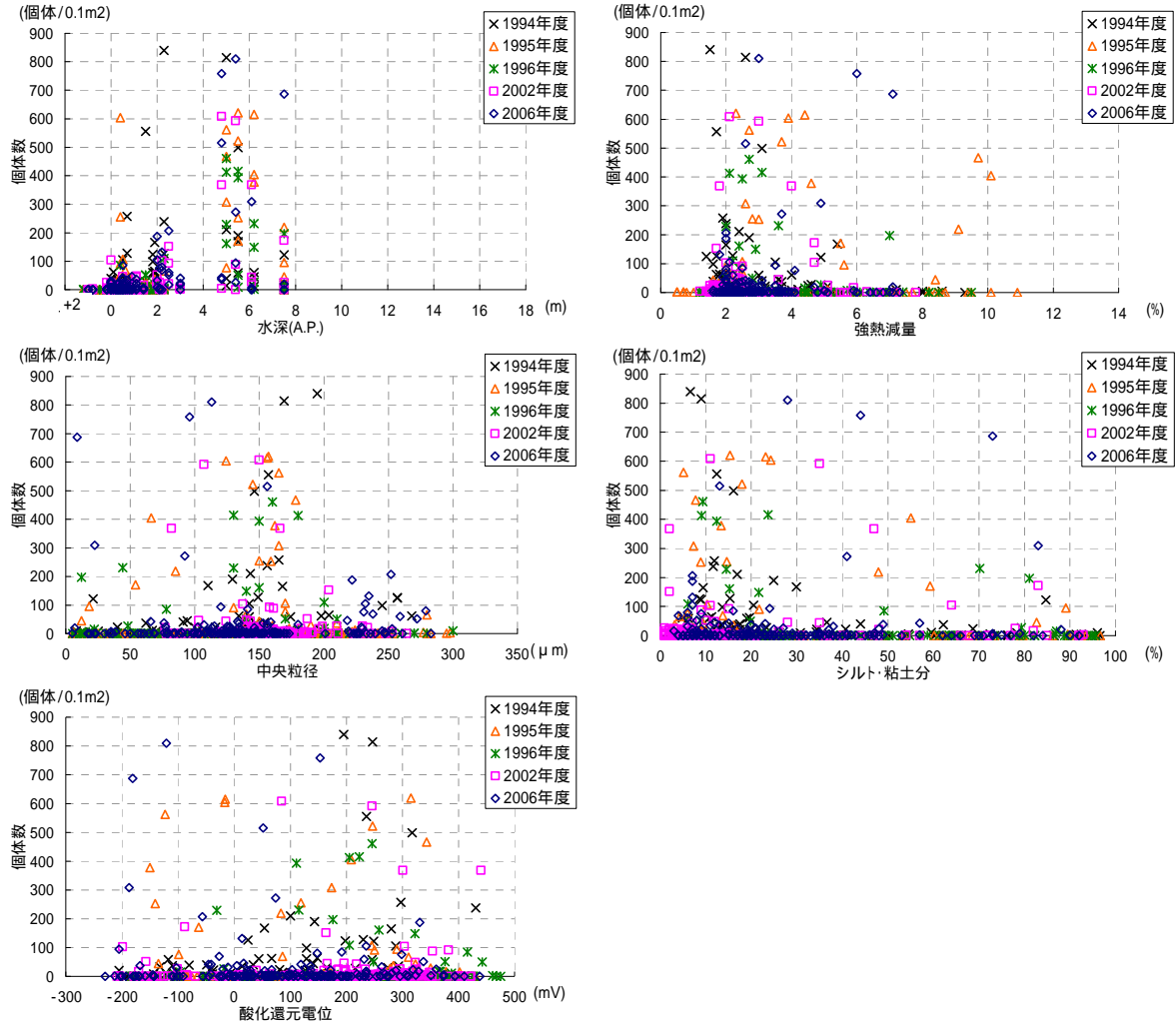


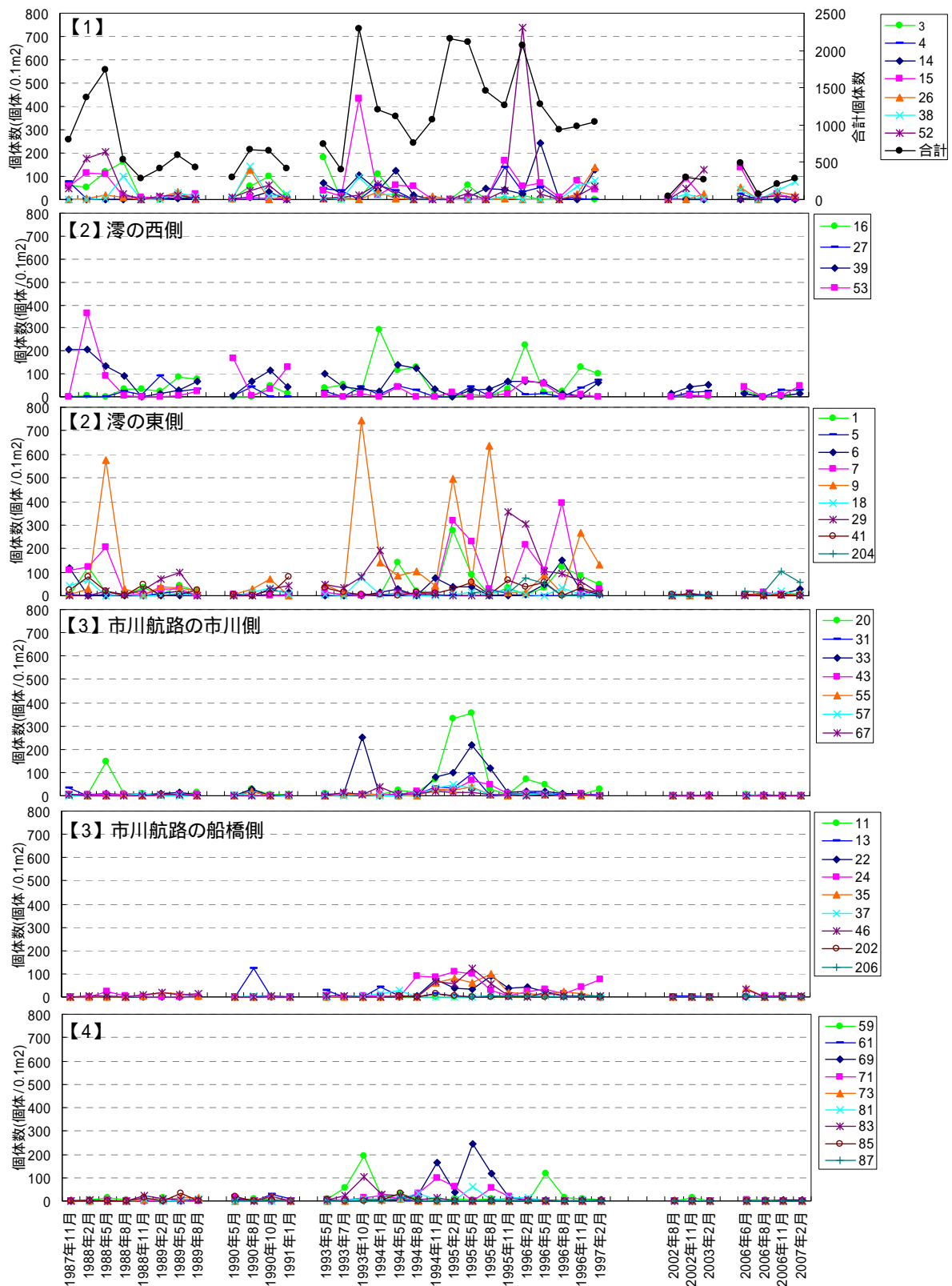
図 3.25 シノブハネエラスピオの出現個体数と底質との関係

3) 生態等

シノブハネエラスピオ	
分布	西南日本*1
形態	2対の眼点がある。囲口節側面後端に小突起がある。第1鰓がやや大きく、第3鰓がやや小さい。第1鰓の左右の基部間に隆起がある。第3剛毛節背面に糸状突起がある。*1
生息環境	貧酸素耐性が強い。有機汚濁の指標種として知られる。*1
生活史	一般に多毛類には間接発生がみられる。発生途中でトロコフォア(担輪子)とよばれる自由遊泳型の幼生が生じ、それがプランクトン生活を行ったのち、変態して底生生活を行う蠕虫形の成体に発育する。*2
文献	*1 <i>Paraprionospio</i> 属多毛類の分類と系統 (横山寿, 2007年, 海洋と生物 172, vol.29, No.5, 487-494) *2 無脊椎動物の発生・上 (団勝磨・安藤裕・関口晃一・渡辺浩, 1983年, (株)培風社)

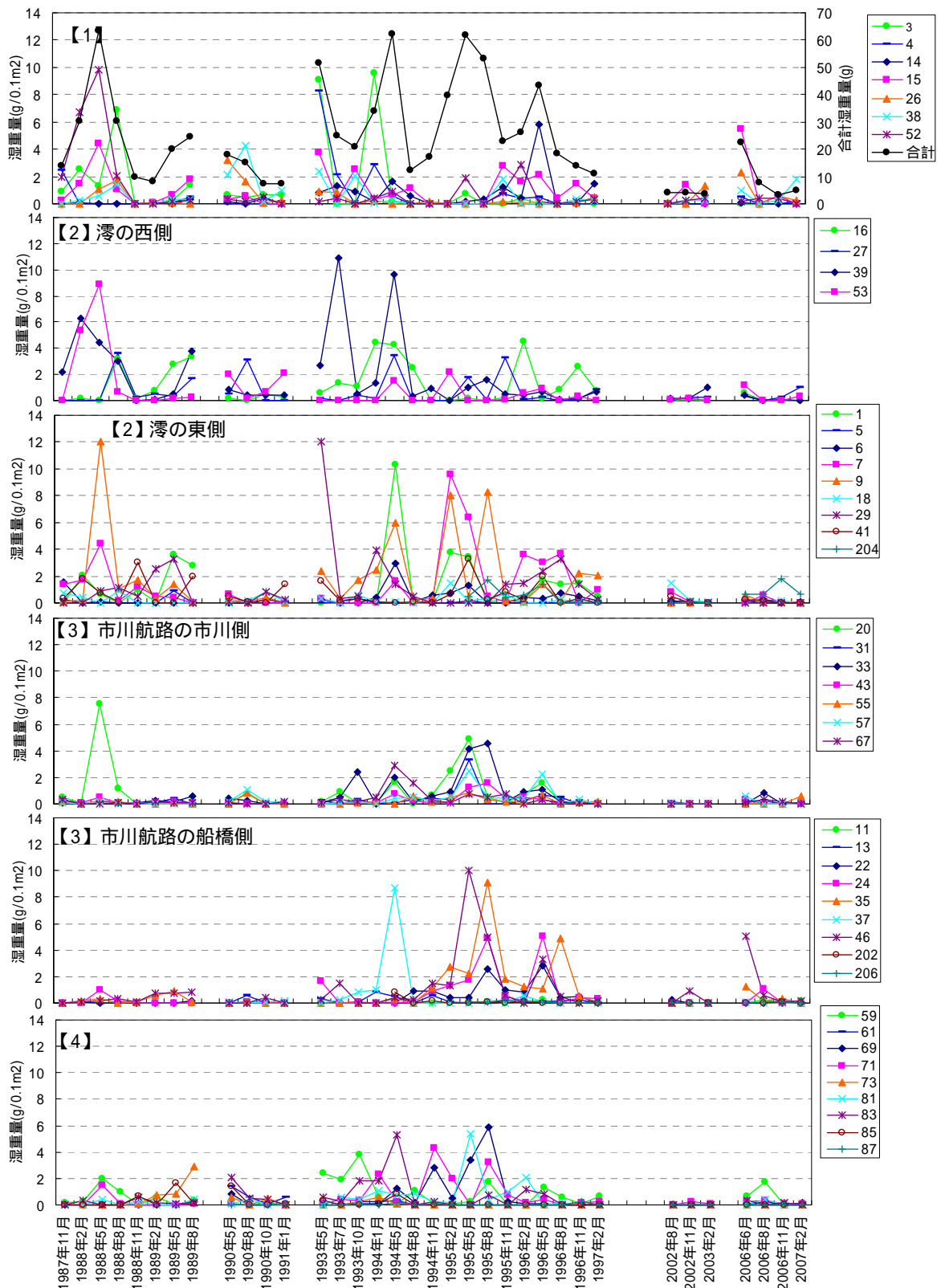
(6) ミズヒキゴカイ

1) 経時的な変化



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.26(1) ミズヒキゴカイの地点別の経時的な変化 (個体数)



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.26(2) ミズヒキゴカイの地点別の経時的な変化 (湿重量)

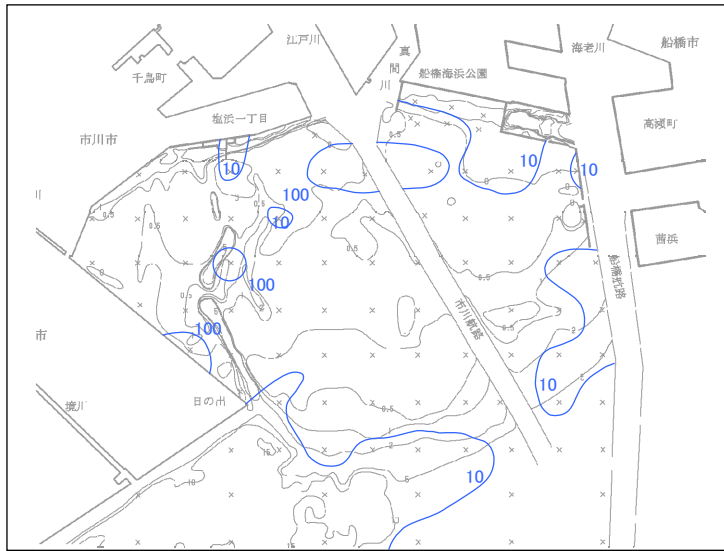


図 3.27(4) ミズヒキゴカイの平均個体数密度分布 (1994-1996 年度平均)

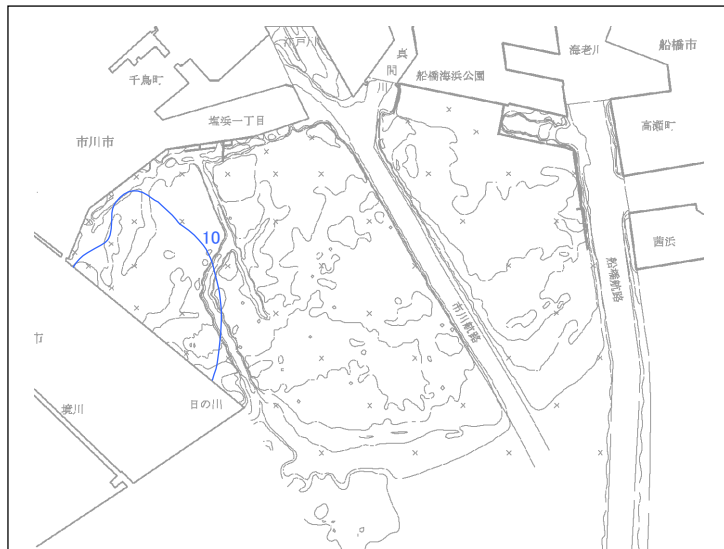


図 3.27(5) ミズヒキゴカイの平均個体数密度分布 (2002 年度)

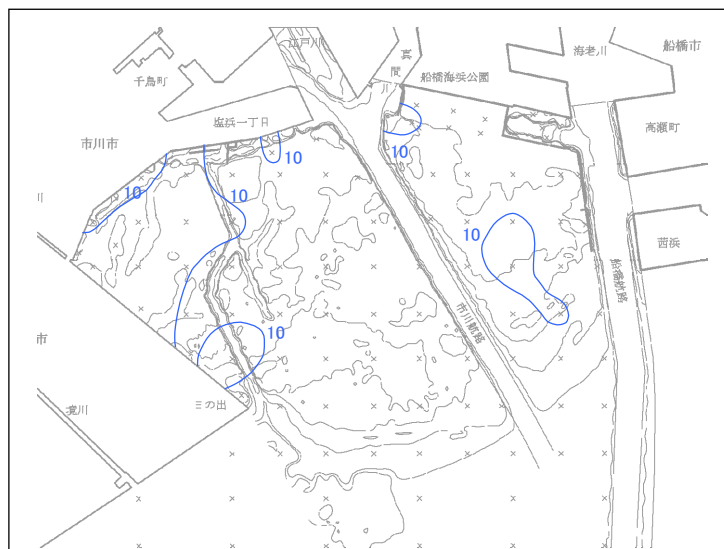
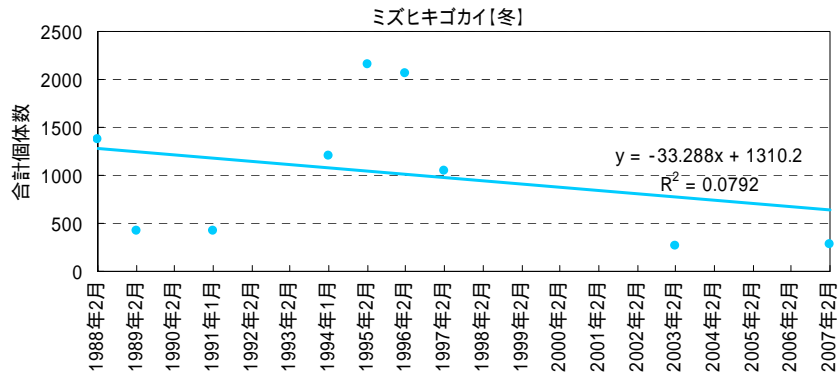
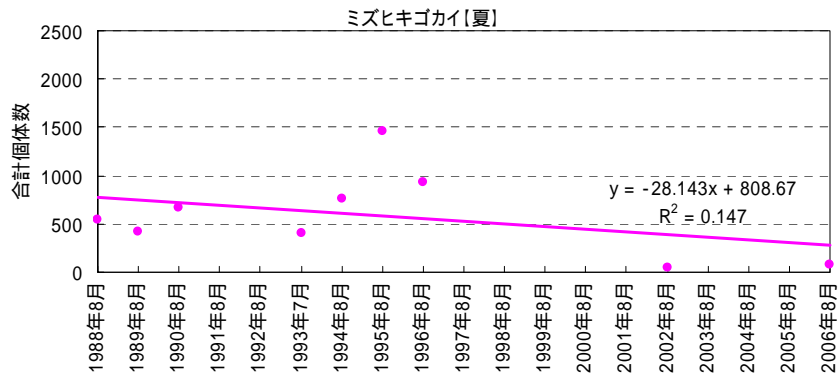
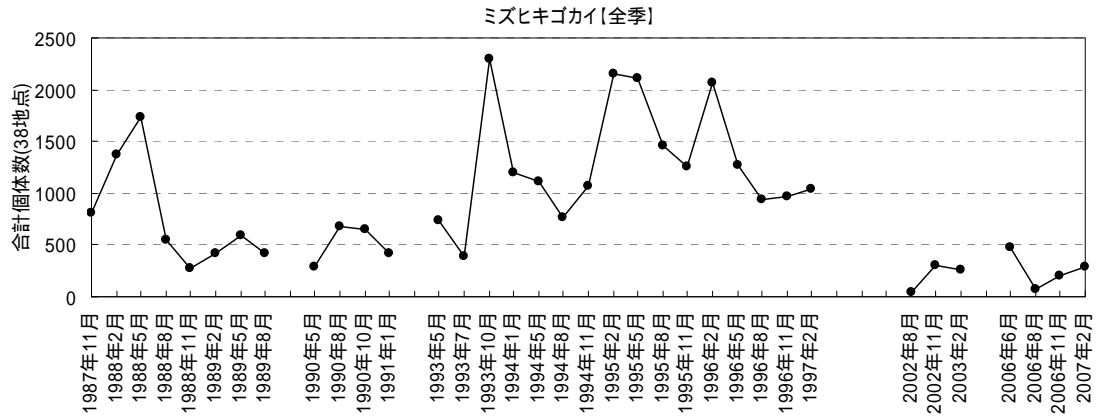


図 3.27(6) ミズヒキゴカイの平均個体数密度分布 (2006 年度)



注) 個体数は、各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計の値を示す。

図 3.28 ミズヒキゴカイの個体数の変化の傾向(上:全季節、中:夏季、下:冬季)

2) 底質との関係

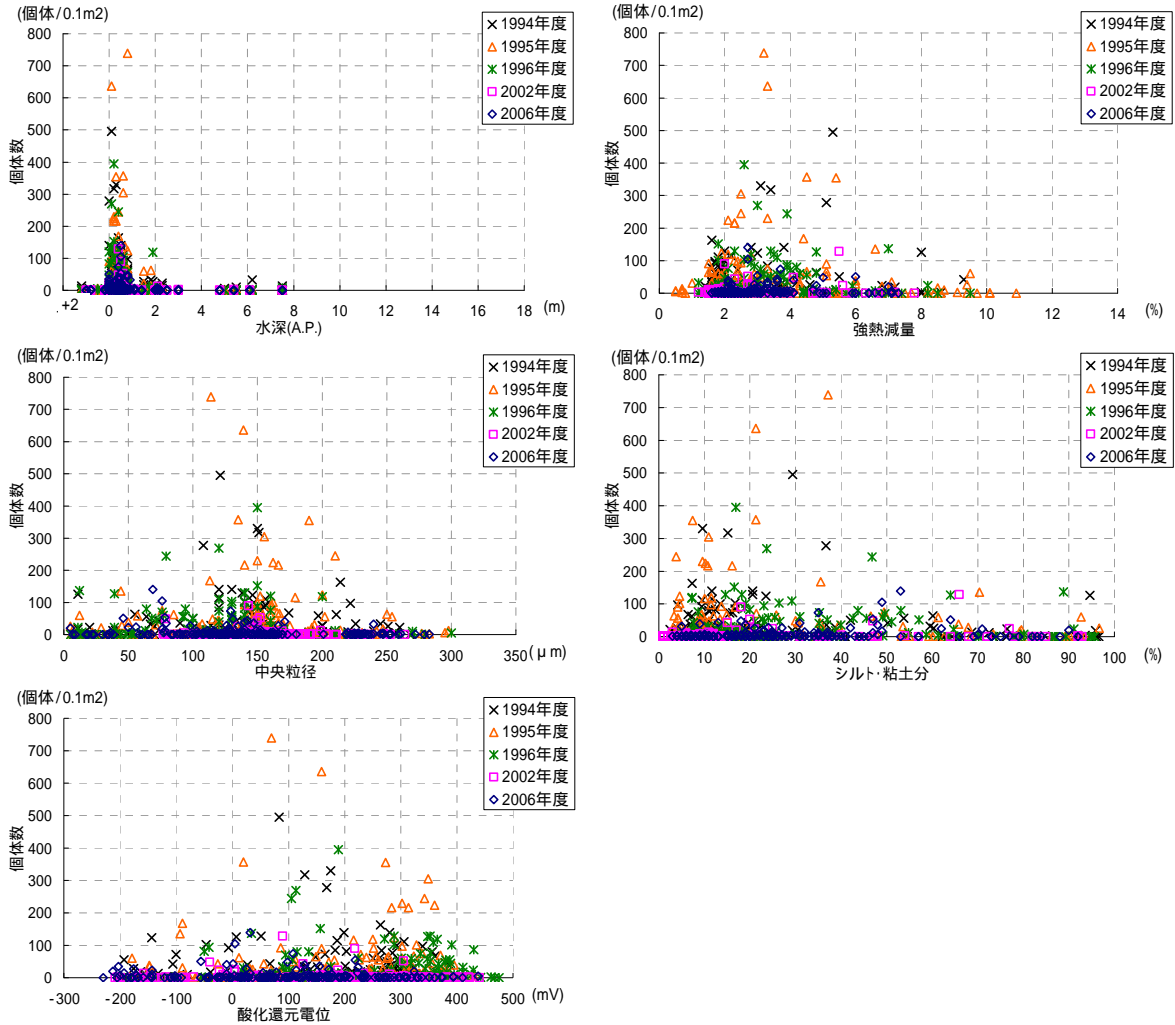


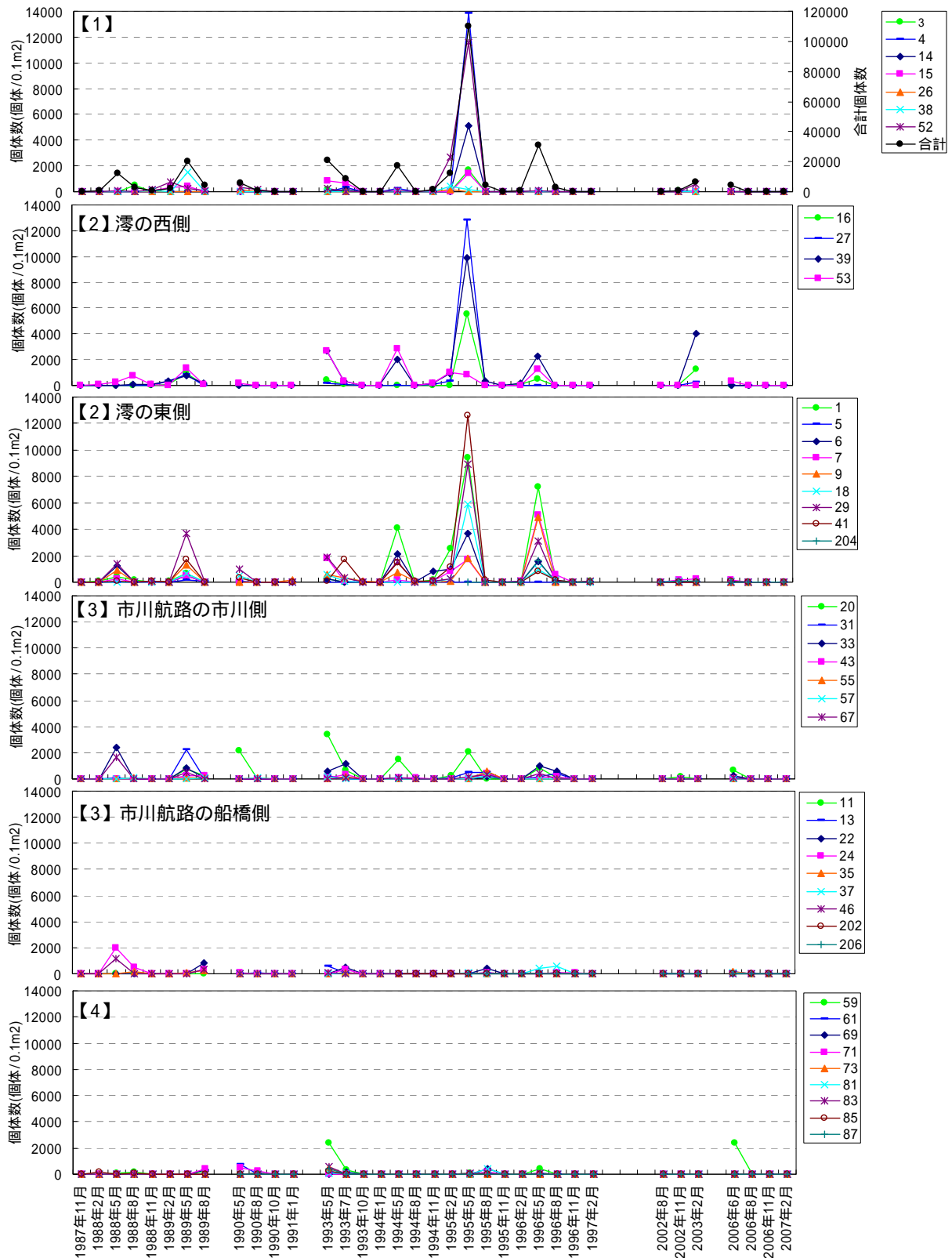
図 3.29 ミズヒキゴカイの出現個体数と底質との関係

3) 生態等

ミズヒキゴカイ	
分布	北海道西南部以南。*1
形態	体長3~15cm。体はやや太くてずんぐりしている。眼はない。第1剛毛節から左右1対の鰓系があり、第6剛毛節背面に感触系群がある。各体節左右の鰓系は背疣足上端に接するように出る。*2
生息環境	砂泥性海岸の潮間帯に生息する。かなりの汚染域にも群棲する。*2
生活史	一般に多毛類には間接発生がみられる。発生の途中にトロコフォア(担輪子)とよばれる自由遊泳型の幼生が生じ、それがプランクトン生活を行ったのち、変態して底生生活を行う蠕虫形の成体に発育する。*3
文献	*1 原色日本海岸動物図鑑(内海富士夫,1978年,保育社) *2 原色検索日本海岸動物図鑑[](西村三郎,1992年,保育社) *3 無脊椎動物の発生・上(団勝磨・安藤裕・関口晃一・渡辺浩,1983年,(株)培風社)

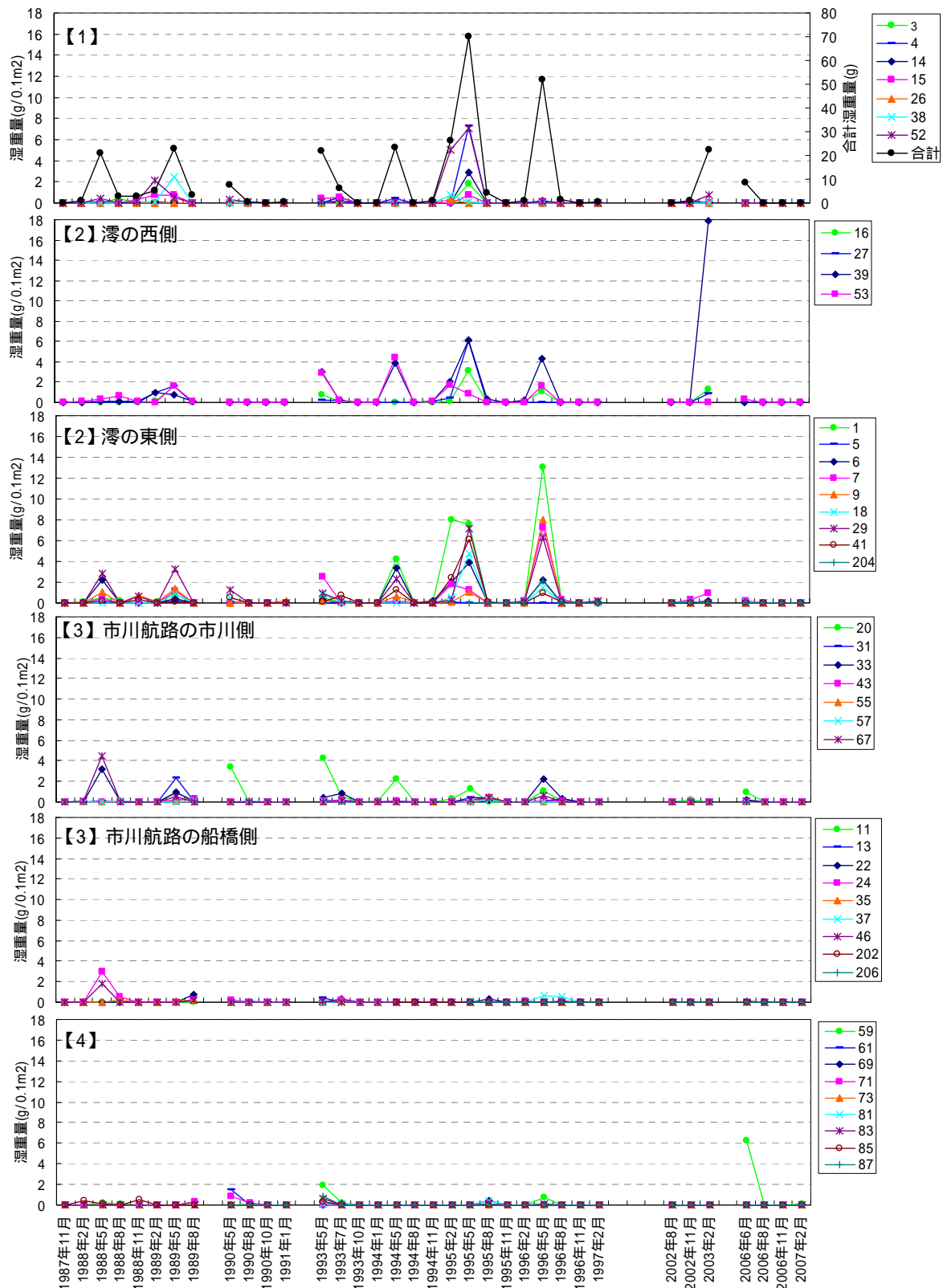
(7) アリアケドロクダムシ

1) 経時的な変化



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.30(1) アリアケドロクダムシの地点別の経時的な変化 (個体数)



注) 合計は各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計を示す。

図 3.30(2) アリアケドロクダムシの地点別の経時的な変化(湿重量)

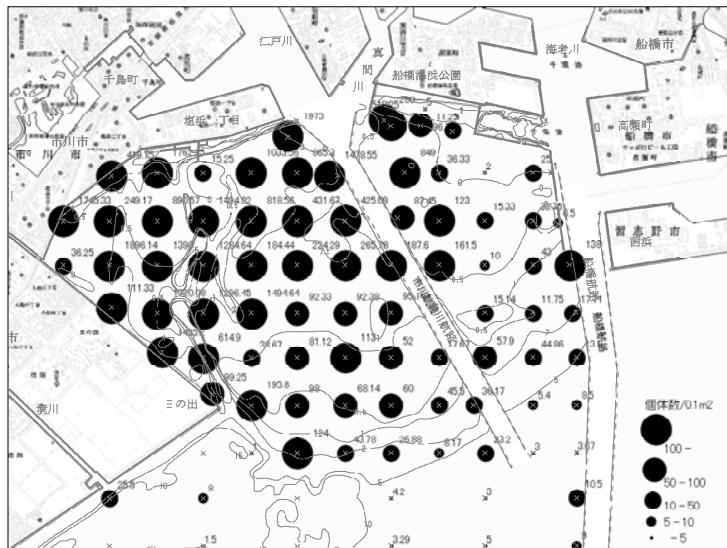


図 3.31 (1) アリアケドロクダムシの平均個体数密度分布 (1994-1996 年度平均)



図 3.31 (2) アリアケドロクダムシの平均個体数密度分布 (2002 年度)

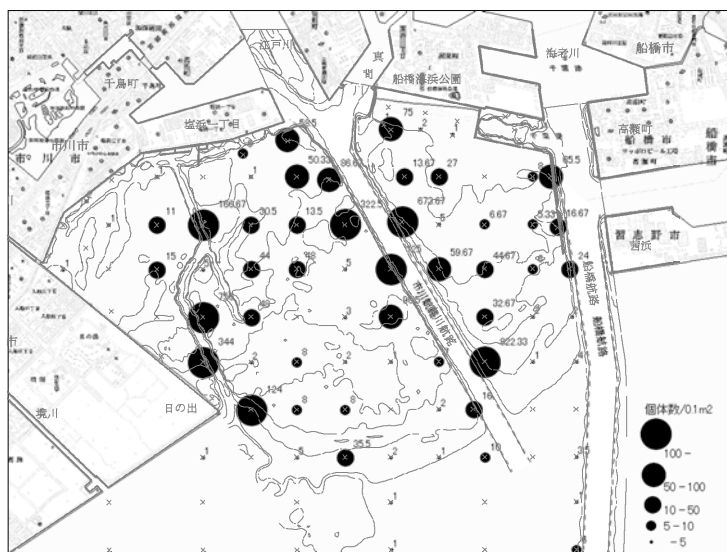


図 3.31 (3) アリアケドロクダムシの平均個体数密度分布 (2006 年度)

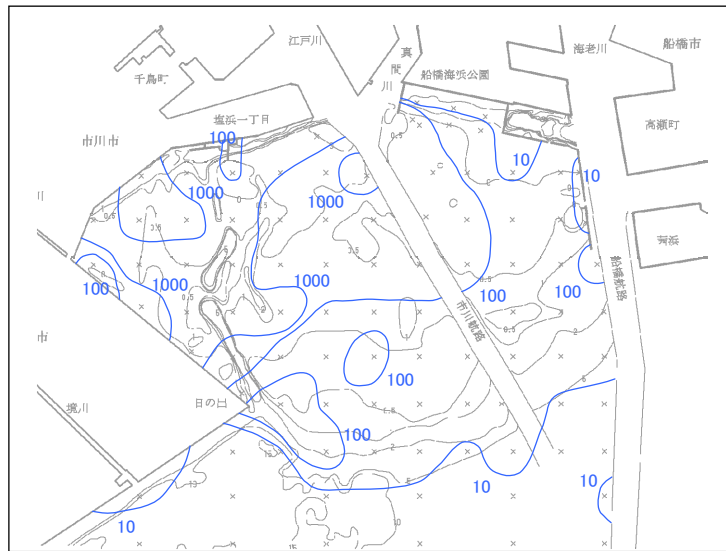


図 3.31(4) アリアケドロクダムシの平均個体数密度分布 (1994-1996 年度平均)

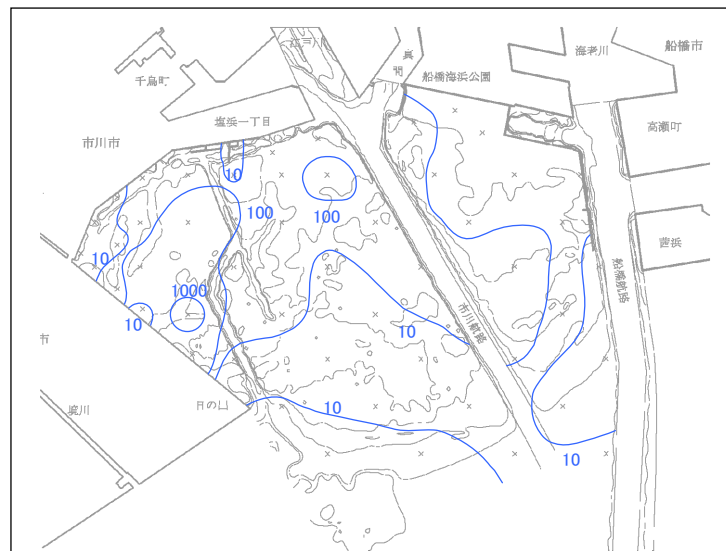


図 3.31(5) アリアケドロクダムシの平均個体数密度分布 (2002 年度)

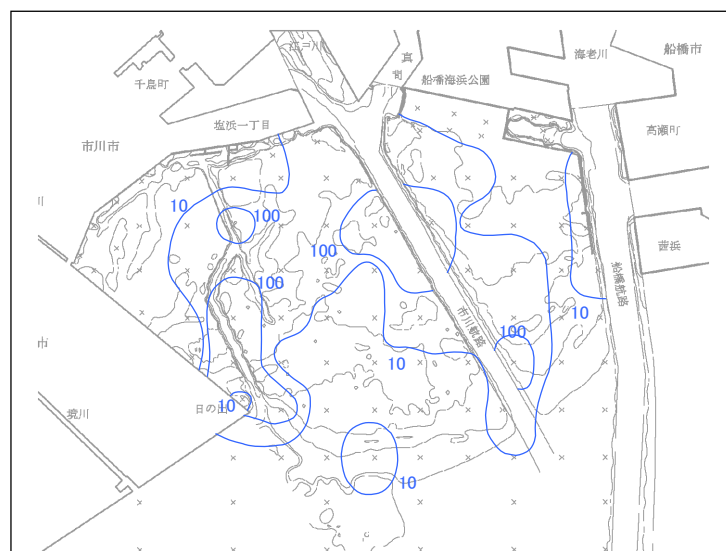
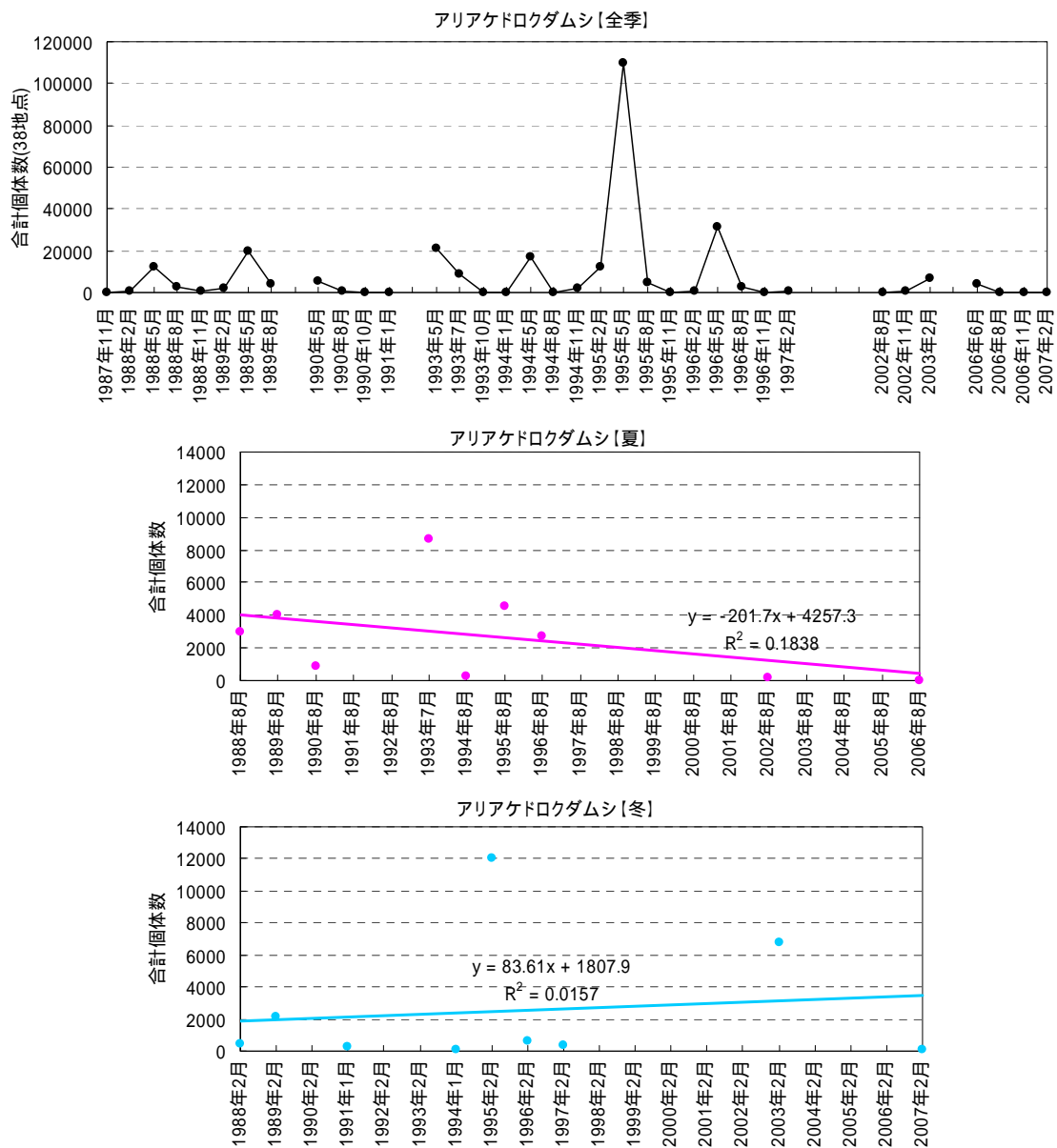


図 3.31(6) アリアケドロクダムシの平均個体数密度分布 (2006 年度)



注) 個体数は、各調査年度・時期で共通している 38 地点の合計の値を示す。

図 3.32 アリアケドロクダムシの個体数の変化の傾向(上:全季節、中:夏季、下:冬季)

2) 底質との関係

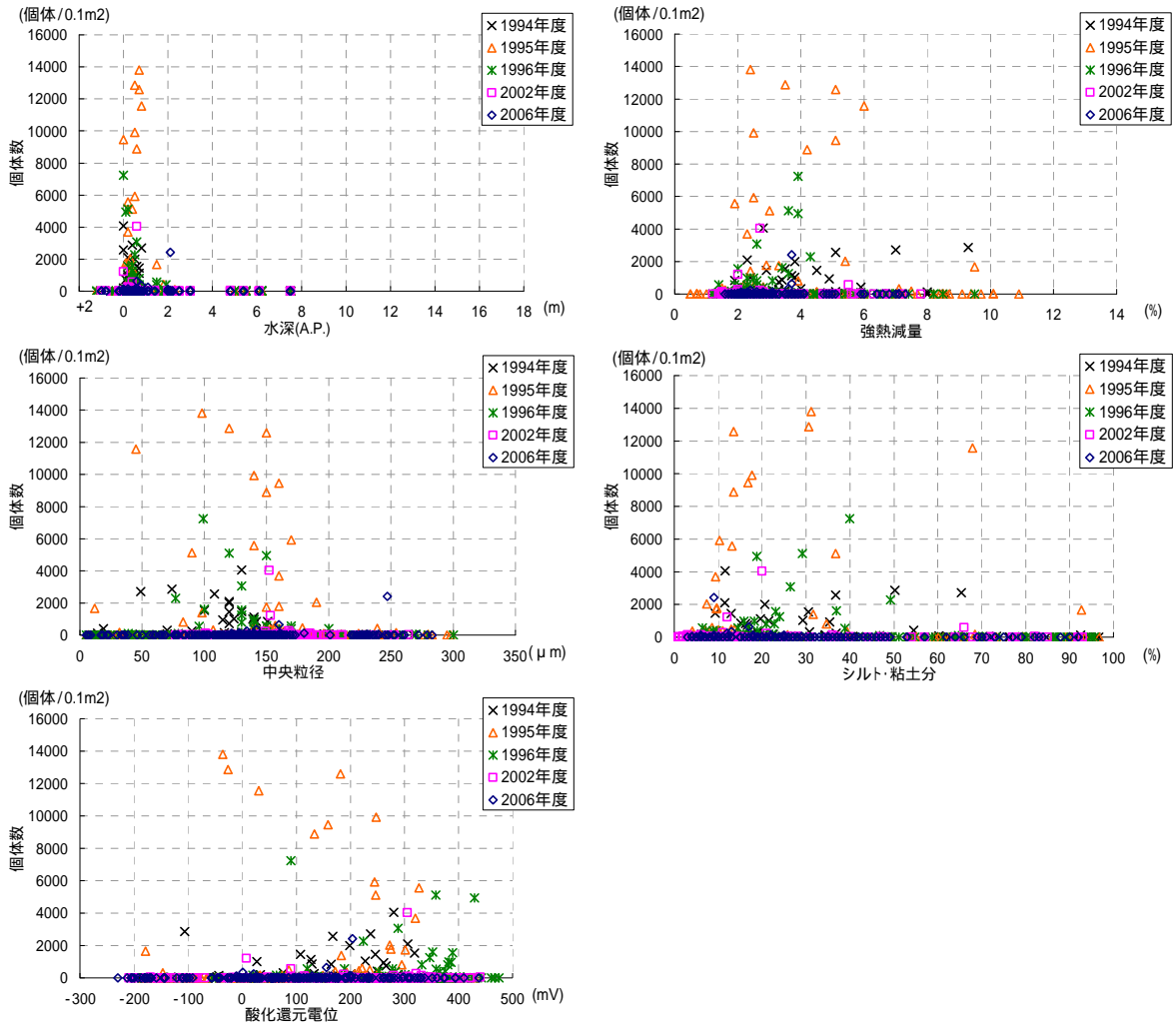


図 3.33 アリアケドロクダムシの出現個体数と底質との関係

3) 生態等

アリアケドロクダムシ	
分布	全国
形態	体長 5mm、第 4～第 6 腹節は癒合し、その側面の分節跡は少し不明瞭。第 2 触角は雌雄二型。雄の第 2 触角の第 5 柄節は、基部近くに突起を備える。第 2 咬脚は指節に 2 歯を備える。大顎の触肢基節先端の一角に端節がつき、他端の角は突出せず、羽毛状剛毛を供える。第 3 尾肢は小さく、柄部の外縁先端は突出せず、その単枝は卵形である。
生息環境	沿岸に普通にみられる。基質を選ばず、管を基質上に構築する。
文献	原色検索日本海岸動物図鑑 [] (西村三郎, 1995 年, 保育社)